

3つの目で見た郷土香川《第17回》

～善通寺近代建築遺産紀行～

今回は、善通寺市街地にたたずむ近代建築遺産を巡るさわやかウォーキングをしてきました。

まず出発地のJR土讃線・善通寺駅（右写真／国指定登録有形文化財）は、1889（明治22）年に讃岐鉄道が切妻造の駅舎として建築、そして1922（大正11）年に陸軍特別大演習の開催に合わせて車寄せ部分などを増築、1991（平成3）年に屋根が棟造り（よせむね）に改修が行われております。



駅から西に歩いて行くと善通寺市役所があり、その奥には、旧善通寺偕行社（かいこうしゃ）（左最上・2番目写真／国指定重要文化財）は、1903（明治36）年5月に陸軍将校の親睦団体の偕行社がの集会場として竣工されました。本施設は師団司令部所在地に（善通寺は第11師団）建設されましたが、現存するものは少数になっております。

1922（大正11）年に陸軍特別大演習の時には、摂政官（後の昭和天皇）様の御宿泊所とされるなど迎賓館としての役割もありましたが、1945（昭和20）年の終戦後は、米軍の社交場、警察予備隊・保安隊（後の陸上自衛隊）、善通寺市役所、公民館、郷土資料館などの公共施設として活用されていきました。

2001（平成13）年12月に調査整備委員会が設置されたことから保存修理事業が開始され、2008（平成20）年4月に竣工しました。この施設は見学だけではなく、現在でも催し物（ブライダルも可）や会議などに利用できるといのが特色ではないかと思えます。また催し物などで使用していない時は、無料で内部も見学もできます。また隣には付属施設の「偕行社かふえ」というレトロでモダンな洋風建築とガラス張りの明るいカフェもありますので、いかがでしょうか？



善通寺市役所の向かい側には、瀬川酒店（直上写真参照）という1917（大正6）竣工の本瓦葺き入母屋（いりもや）造りの母屋がありました。そして四国学院の西側を南に進むと、今度は磯野邸（右写真）で、正面に洋風建



建築、奥に和風建築という和洋折衷スタイルで、1930（昭和 5）年に当時の陸軍主計中尉が建てた住宅です。

そしてここから西に進むと、1898（明治 31）年竣工の第 11 師団師団司令部の建物があります。ここは自衛隊の敷地内ですが、第 11 師団や善通寺駐屯の自衛隊の紹介などの展示がされており、現在乃木館（第 11 師団初代師団長が乃木希典（まれすけ））として一般公開されており（訪問日は水曜日で休館でした）。再び西へ、しばらくして大門通り（ゆうゆうロード）を北上すると、道の両側が自衛隊の施設群となり、東側には明治から大正にかけて竣工された赤煉瓦の兵器部倉庫が 3 棟あり、遠景に善通寺の五重塔とともに、絵になるような風景でした（表紙写真）。



四国霊場第 75 番霊場、真言宗宗祖の空海（弘法大師）の生誕地である善通寺は、五重塔（右最上写真）など伽藍のある東院と誕生院のある西院があり、静かな厳かなたたずまいでした。この東院と西院の間、仁王門近くの南北の道沿いの熊岡菓子店（右上 2 番目写真）は、カタパンという堅いお菓子が名物で、元は軍事食糧として考案されたものだそうです。善通寺東側赤門から東側に続く赤門通り、1963（昭和 38）年までは琴平参宮鉄道（琴参）の電車が運行されており、善通寺赤門前駅跡（1912（大正 12）年／左最上写真）はその玄関として、参拝客の利用がさぞかし多かったのだろうと思われま



寺赤門前駅跡（1912（大正 12）年／左最上写真）はその玄関として、参拝客の利用がさぞかし多かったのだろうと思われま



さらに東側の本郷通りには、伝統的和風建築である大川酒店（1901（明治 34）年竣工／左上 2 番目写真）、大川酒店の応接間でもあった瓦葺き洋風建築の大川邸（1937（昭和 12）年竣工／左上 2 番目写真）という和洋両建築が隣りあっています。最後は再び善通寺駅と東西の通りに戻り、水尾写真館は、木造 2 階建て、寄せ棟造りで大正末期の竣工の住宅権店舗の洋風建築、建物上部には「水尾」という右書の表示があるのが印象的でした



《参考資料》

- ・旧善通寺偕行社保存修理のあゆみ
（善通寺市発行／ 2009（平成 21）年）
- ・近代化遺産探索マップ（善通寺市教育委員会発行）
- ・善通寺市ホームページ
- ・陸上自衛隊 第 14 旅団ホームページ